

山谷

やられたらやりかえせ

80年代下層労働からフクシマへ

<フィルム紹介>

映画『山谷—やられたらやりかえせ』は、1985年に作られたドキュメンタリー映画です。当時日雇いの労働者が集まる地域は、通称ドヤ街と呼ばれていました。このフィルムには、東京最大のドヤ街であった荒川区のかつての「山谷」の状況と生活が活写されています。一年間の流れの中で撮影されると同時に、カメラは、山谷の外に出てゆきます。横浜の寄せ場寿町、名古屋の寄せ場笹島、大阪の寄せ場釜ヶ崎、博多の寄せ場築港へ、また筑豊に残るボタ山、炭鉱跡、炭住跡、そこで逞しく生きる人々の姿が撮影され、さらに、かつて筑豊の炭鉱で働いていた「朝鮮人労働者」が言及されます。...しかし、映画は、玄界灘のシーンの後に一瞬の黒みを間に置いて、1985年の山谷春闘のシーンに再び戻ってきます。



<監督:佐藤満夫氏、山岡強一氏について>

山谷の闘争に携わっていた佐藤満夫氏によりシナリオ案が練られ、撮影が開始された。しかし労働者たちの生活に暴力団が介在していることを描いたことから地元のヤクザに狙われ、その結果1984年12月22日、佐藤氏は暴力団・日本国粋会全町一家西戸組の組員により刺殺される。映画制作は、実際に山谷の労働者で全国日雇労働組合（略称は日雇全協）の創設メンバー山岡強一に託され、翌1985年より制作が再開された。しかし明けて1986年1月13日、今度は山岡氏が暴力団・日本国粋会全町一家金竜組の組員に射殺される。制作過程において2人の犠牲者を出したこの作品は未だにビデオソフト化されていない。



<講師:中村光男氏 所属:被爆労働を考えるネットワーク>

中村氏は、『山谷やられたらやりかえせ』の成り立ちに深くかかわっていらっしゃる方です。『山谷やられたらやりかえせ』の上映に続いて、現在の最も深刻な矛盾を孕む下層労働の現場——表には見えなくなっている「被爆労働」について、映像を交えながらお話しをいただきます。

日時：10月20日（月）4~5時 限目 14：40～17：50

会場：和泉キャンパス第一校舎502教室（5階）

講師：中村光男氏

コーディネーター：丸川哲史 政治経済学部教授

予約不要：学部生の受講可

学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。

教養デザイン研究科 Tel： 03-5300-1529